

第 71 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和 4 年 7 月 22 日（火）10：00～10：30

場 所：県庁 10 階 防災センター

出席委員：鞍谷委員長、片岡委員、西本委員、望月委員、泉委員、大堀委員、藤野委員
（WEB 出席）山本（章）委員、黒崎委員、吉橋委員、山本（雅）委員

議 題：

- （1）原子力発電所周辺の環境放射能調査について
 - ・令和 3 年度 第 4 四半期（1 月～3 月）報告
- （2）発電所の運転・建設および廃止措置状況について
 - ・令和 4 年 3 月～6 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転および廃止措置状況について、事務局より説明
- 資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配付予定

（原子力発電所周辺の環境放射能調査）令和 3 年度 第 4 四半期

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 一部の試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。
- ・ 一部の試料から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。

（発電所の運転および廃止措置状況）令和 4 年 3 月～7 月

- ・ 今期間の運転状況は、計画外の原子炉停止や出力抑制はなかった。運転中のプラントは大飯 3 号機となっている。現在、県内発電所 7 基が定期検査中となっている。
- ・ 当該期間において、安全協定に基づき報告された異常事象は 3 件あった。

<主な質疑>

- Q. 大飯 4 号機の電動主給水ポンプミニマムフロー配管からの水漏れについて、原因は液滴衝撃エロージョンとのことだが、詳細検討の末の判断か。
- A. 内面コーティングが局所的に剥げていること、特有の凸凹模様になっていること、当該箇所が二相流状態であったことなどから判断している。
- Q. 高浜 3、4 号機の蒸気発生器伝熱管損傷について、蒸気発生器への鉄イオンの持ち込みを低減する対策を講じる必要があるのではないか。
- A. 初期の 20 年間と比較すると、配管のステンレス化や高 pH 運転により、鉄の持ち込み量は非常に低減されている。高浜 3、4 号機の蒸気発生器は運転時間が非常に長く、多くは過去に持ち込まれた鉄が稠密化していると思われる。

以 上